

解説

附属中学校 1 年 音楽科

タイトル：作詞・作曲／自分

授業者：向田瑞貴 教諭

解説タイトル：

音と言葉の出会いから生まれる創造性 — 音楽の授業における創造的思考力の育成

コンピテンシー育成開発研究所

特任講師 Claudia Gherghel

「作詞・作曲／自分」は、中学校 1 年生が国語科で創作した詩に旋律を付け、自作の歌を完成させる音楽科の創作題材である。生徒自身が作詞・作曲の両方を手がけるこの実践は、音楽的知識や理論に縛られることなく、自分の言葉にふさわしい音を追求するプロセスを通じて、音楽表現の根源にある創造的な活動を促すものとなっている。

この授業で育まれる資質・能力は、**創造的思考力**である。これは、お茶の水女子大学のコンピテンシー 10 において新しいアイディアを生み出したり、既存の枠組みにとらわれず柔軟に考えたりする力と定義されており、既存の知識や方法を応用・再構成する中で、個人の新しい表現を創り出す力を含む。特に音楽科の創作活動では、試行錯誤の中から自ら納得できるかたちを見つける力が、創造的思考力の中核として重要視される。

本授業では、操作が直感的で、音を視覚的に編集できるソフト「カトカトーン」を活用し音楽創作が行われる。生徒たちは与えられた素材をどのようにアレンジするかなど、選択の自由度を高く設計することで、創作意欲や独自性が引き出されている。詩の構造や語感を旋律に変換するプロセスにおいては、単なる作曲ではなく、言葉の意味や音感を音楽的に再構成する力が問われており、音楽と国語の知識をつなげて創造的に活用するという思考力の育成にもつながっている。最終授業で生徒が互いの作品を発表し合うことで、他者のアイディアから着想を得る機会も設定されており、創造的思考が相互作用の中で深化している様子がうかがえる。また、授業者の振り返りでは、生徒が既存の枠にとらわれず自由に発想・表現する姿に触れたことで、指導や評価のあり方について再考する契機となったことが語られている。授業者自身、音楽理論や形式に基づいた見方に偏りがちであったことに気づき、生徒の多様な創作をより柔軟に受け止める姿勢の大切さを指摘している。

以上のように、本授業は ICT を活用することで音楽創作の可能性を広げるとともに、生徒の感性や言葉を自由に音楽として表現させる機会を提供しており、創造的思考力をはじめとするコンピテンシーの育成という観点からも意義深い実践であるといえる。